

議 事 録

件 名		令和８年度 第１回 久留米市男女平等推進センター運営委員会
日 時		令和８年８月２７日(木) １４：００～１５：３０
場 所		えーるピア久留米 ２１０・２１１研修室
出席者	委員	永松委員、末崎委員、平田委員、堀田委員、池田委員、新開委員、江藤委員、松本委員、檜原委員、笠委員、伊崎委員
	事務局	神代、石橋、古賀、渡邊（男女平等推進センター）
	ワザ-バー	水落担当部長、森山次長、鮎川主査
欠 席 委 員		荻木委員、井上委員
傍 聴 者		１名
配 布 資 料		① 次第 ② 委員長および副委員長の選出について ③ 【議事（１）】令和７年度 事業概要 ④ 【議事（１）】令和７年度 施設の利用実績 ⑤ 【議事（２）】令和８年度 事業実施状況 ⑥ 【議事（２）】令和８年度 施設の利用状況（６月末現在） ⑦ （参考）第１３期 久留米市男女平等推進センター運営委員会 委員名簿 ⑧ （参考）久留米市男女平等推進センター運営委員会規則 ⑨ （参考）第５次久留米市DV対策基本計画 ⑩ （参考）令和７年度版 久留米市男女共同参画白書
議 事 内 容		
１ 開会 ２ 議事 （１）令和７年度事業実績報告について （２）令和８年度事業実施状況について ① 事業の実施状況 ② 施設の利用状況（６月末現在） ３ 閉会		

議 事 内 容

【質疑応答・要望】

(1) 令和7年度事業報告について

- (委 員) 施設の利用実績の利用者区分の人数のグラフについて、男性と女性が逆ではないか。
- (事務局) ご指摘のとおり、7年度、8年度とも逆になっているため、訂正をお願いしたい。
- (委 員) デートDV防止啓発講座について、大事なことだと思っているので質問したい。
これは、学校から依頼を受けて実施しているのか、すでに実施校が決まっているのか。
また、どのように呼びかけているのか、毎年同じ学校が申込をしているのかどうか。対象の学年が決まっているのかも教えてほしい。
- (事務局) 市内中学校の校長会にて講座の実施を呼びかけ、申込があった学校で実施している。現在、実施校で決まっているのは、実施した1校になる。
- (事務局) 実施した中学校からは、暴力に対して正しい理解ができた、やってよかったということで、毎年申し込んでいただいている学校もあり、アンケート結果からも成果が出ている。
受講された学校の先生方には、ほかの学校に呼び掛けてもらうよう案内もしている。
また、学校では、前年度のうちにカリキュラムが決まってしまうため、教育委員会と協議して、講座の実施においては「道徳」や「総合学習」などの時間に充てることのできる
ことについて、前年度のうちに呼び掛けを行っている。
なお、対象学年については、全学年を対象としており、荒木中学校では全学年を3日にかけて実施した。
- (委 員) 中学校では、にじいろ CAP のプログラムも実施されているので、連携していければいいと思う。
- (委 員) デートDV啓発講座は、事業の開始からこれまでに何校くらいが実施しているのか。
- (事務局) 毎年実施する学校や、1回実施した学校と濃淡はあるが、約10校くらいと認識している。
- (委 員) パープルリボンキャンペーン事業については、毎年、私の大学の構内にも啓発チラシ入り啓発物を置いていただいているが、1週間でなくなることもあり、男子学生を含め好評である。久留米市では、パープルリボンの取組を積極的にされており、久留米市以外から入学する学生たちには、初めて触れて興味を持つ学生がいることについて、現場の声として、ぜひ報告させていただきたい。
- (ワザバー) ご意見いただいたパープルリボンキャンペーン事業は、男女平等政策課が担当している。好評ということを知って大変嬉しく思う。今後も、啓発チラシやパネルなど若い世代にも伝わるように工夫していきたい。
- (委員長) ちなみに、くるめフォーラムの会場にも、パープルツリーが飾られていると思う。

(2) 令和8年度事業実施状況について

①事業の実施状況

- (委 員) 20ページの啓発パネルの企画展示について、今までにない充実したパネル展示になっているので、今後もぜひお願いしたい。また、私たち活動団体からの要望について受け入れいただき感謝している。
質問だが、1ページの男女共同参画講座「仕事とジェンダー」について意見がある。
チラシにも、アンコンシャス・バイアスを「無意識の思い込み」と記載されているが「無意識の思い込みと偏見」と記載をしてほしい。チラシは受け取った人の学習にもなる。個人の問題だけではなく、社会的課題だというメッセージが必要。内閣府の啓発物も「無意識の偏見」という言葉されるようになったので、センターもこれに倣って「偏見」と記載してほしい。

- (事務局) ご意見いただいたように、アンコンシャス・バイアスについては「無意識の偏見と
思い込み」ということで認識はしているため、今後は「偏見と思い込み」と並列するよう
に留意していく。
- (委員) 「自分のためのブックタイム」では、父親や外国籍の方の参加はあるのか。市内には
外国籍の方が増えていると思うが、参加を促すことはあるのか。
- (事務局) 講座のタイトルのとおり、母親に限定していないため、父親の参加も可能だが、実績
では、ほとんど母親である。また、外国籍の方への呼びかけについては、課題とは思っ
ているが、追いついていない。現在、DV相談について、多言語カードを作成して広報
している状況である。
- (委員) これからも外国籍の方は増えていくと思うので、準備をお願いしたい。
- (委員) 1 ページの研修事業で、「①男女共同参画週間記念講演」の下に、「a. 男女共同参画週
間記念事業」と記載がある。表には、講演や企画展示、上映会も記載があるので、「①
男女共同参画週間記念事業」とした方がいいのではないかな。
また、7 年度と 8 年度の「男女共同参画のまちづくり講座」の講師を教えてほしい。
それは委託でしたか。
- (事務局) ご意見いただいた研修事業の記載については、整理した上で次回の運営員会資料か
ら修正する。
また、「男女共同参画のまちづくり講座」は、委託ではなく、都度、地域と一緒に考
えて、ジェンダー研究所にお願いして、7 年度は、倉富史枝さんに講師で来ていただい
た。なお、今年度もジェンダー研究所にお願いする予定。
- (委員) 「自分のためのブックタイム」の実施回数が、7 年度と比べて半分に減っているのは理
由があるのか。
- (事務局) 内容は同じだが、回数は見直を行った。これは、8 年度の事業全体をについて、センタ
ーの抱える課題の解決に向けて見直しを検討したものの一つになる。若い世代や男性の
参加者を増やしていくこと、また、センターの認知度を上げていく課題について、予算等
も考慮しながら、全体的に見直した結果、実施回数を減らしたが、1 回あたりの定員は増
やして希望者が参加できるように工夫はしている。
- (委員) 個人的には何回もこの講座に参加したので、回数が減ったことは残念。理由についての
理解はできるが、夏休みなどの長期休暇中の開催は申込者数が少ないことなども分析し
て実施時期についても工夫してほしい。できれば、1 回でも増やしていただきたい。
- (事務局) 図書に関連事業については、ブックタイムや上映会のほかに、今年度は、費用のかから
ないパネル展示などに力を入れている。今後も工夫してやっていきたい。
- (委員) 7 年度の「子育て中の女性の社会参画支援講座（子育てママの自分計画セミナー）」に
ついては、8 年度の計画にはないようだが、変更した理由について教えてほしい。
- (事務局) 子育て中の女性に限らず、広く若い世代が考えるジェンダー平等について考えてほし
いということで、資料の 4 ページに記載のとおり「次世代と考えるジェンダー平等講座」
を計画している。今年度から見直して、新たな講座として準備を進めているため、次回の
運営委員会では報告できると思う。
- (委員) この講座は、開館当時から続いていたもので、受講者からも好評な講座だった。これを
きっかけに活動に広がった人も多いので、コンセプトについては引き継いでほしい。
- (事務局) まだ、計画段階ではあるが、しっかりと「子育て中の女性の社会参画支援講座」の要素
を取り入れながら進めていきたい。

(2) 令和8年度事業実施状況について

②施設の利用状況

- (委員) 3ページの専用貸室(209、210・211、212 研修室)における利用者区分の人数と割合について、登録団体が減少しているのはなぜか。
- (事務局) 登録団体は、男女平等推進センターと生涯学習センターの登録団体を指している。7年度と比較して、男女平等推進センターの登録団体の利用はあまり変わりはないが、生涯学習センターの登録団体の利用が少なくなっていることは把握している。
- (委員) 6ページから7ページの相談室の総合相談の件数について、特に電話相談の件数が昨年度と比較して減っているが、その原因は何か。
- (事務局) 今の時点では、詳細に分析までできていないため、確認した上で報告させていただきたい。
- (委員) 「困難な問題を抱える女性等への支援に関する基本計画」の推進の中で、男女平等推進センターでは変化があったのか。久留米市では、相談もDV支援も進んでいるので、変化は特に無いかもしれないが、今後の計画も含めて教えてほしい。
- (事務局) 「困難な問題を抱える女性等への支援」に関する取組においては、昨年度から引き続き、家庭子ども相談課や民間団体とも連携しながら進めている。
また、弁護士や医師など専門家を講師としたスーパービジョン研修の実施や、女性の生き方支援講座など、必要な支援について、計画に基づいて実施していく。
- (委員) そのような回答だと思っていたが、これからも、行動計画を意識して、事業を進めてほしい。
- (委員) 全体的な感想として、定量的な数としては見えるが、定性的な評価としては分かりにくい。良い取り組みをされているので、成果が分かりやすくすることで、男女平等推進センターの価値が上がると思う。
- (委員) 男女平等推進センターでは、頑張っている事業をされているが、成果の調査という点では、追跡することが必要で、これには、時間・労力・費用がかかり、難しい。例えば、参加者から講座が終わったら一言メモもらって、匿名性を確保して掲示する方法もある。
- (事務局) 委員が言われるように、事業については成果や評価が重要なものとの認識しているため、これまでも、参加者アンケートからいただいたご意見やニーズについては、その後の事業に活かしている。
- (委員) 事業の成果など可視化することで、私たち委員も外部に伝えやすくなると思うので、一緒に頑張っていきたい。

【質疑終了】